

■ 本文

日もいと長きに、つれづれなれば、夕暮れのいたう霞みたるにまぎれて〔①〕、かの小柴垣（こしばがき）のもとに立ち出で給ふ。人々は帰し給ひて、惟光（これみつ）の朝臣（あそん）とのぞき給へば、ただこの西面（にしおもて）にしも、持仏（じぶつ）据ゑ奉りて行ふ尼なりけり。

四十余ばかりにて、いと白うあてに瘦せたれど、つらつきふくらかに、まみのほど、髪のうつくしげに〔②〕そがれたる末も、なかなか長きよりもこよなう今めかしきものかなと、あはれに〔③〕見給ふ。

清げなる大人（おとな）二人ばかり、さては童（わらは）べぞ出で入り遊ぶ。中に、十ばかりにやあらむと見えて、白き衣（きぬ）、山吹などの、なえたる着て、走り来たる女子（めのこ）、あまた見えつる子どもに似るべうもあらず、いみじく生ひ先見えてうつくしげなる容貌（かたち）なり。髪は扇を広げたるやうにゆらゆらとして、顔はいと赤くすりなして立てり。

「何ごとぞや。童（わらは）べと腹立ち給へるか」とて、尼君の見上げたるに、すこしおぼえたるところあれば、子なめりと見給ふ。「雀の子を犬君（いぬぎ）が逃がしつる〔④〕、伏籠（ふせご）のうちに籠めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。

尼君、「いで、あな幼や〔⑤〕。言ふかひなうものし給ふかな。おのがかく今日明日におぼゆる命をば、何とも思したらで、雀慕ひ給ふほどよ。罪得ることぞと、常に聞こゆるを、心憂く」とて、「こちや」と言へば、ついゐたり。

ねびゆかむさまゆかしき人かな〔⑥〕と、目とまり給ふ。さるは、限りなう心を尽くしきこゆる人に、いとよう似たてまつれる〔⑦〕が、まもらるるなりけり、と思ふにも涙ぞ落つる。

■ 設問（全25問）

1. 本文冒頭の「つれづれなれば」の「つれづれなり」の意味を答えなさい。
2. 傍線部①「まぎれて」について、(1)「まぎれ」は動詞「紛る」の活用の種類と活用形を答えなさい。(2)「まぎれて」を現代語訳しなさい。
3. 本文冒頭の「立ち出で給ふ」の「給ふ」について、(1)敬語の種類（尊敬・謙讓・丁寧）を答え、(2)この敬語は誰から誰への敬意を表しているかを説明しなさい。
4. 本文冒頭の「立ち出で給ふ」「のぞき給へば」の動作をしているのは誰か。本文をふまえて答えなさい。
5. 本文中の「いと白うあてに瘦せたれど」を現代語訳しなさい（「あてなり」の意味に注意すること）。
6. 傍線部②「うつくしげに」・傍線部⑤「いで、あな幼や」の「幼や」について、それぞれ本文中での意味として最も適切なものを答えなさい。
7. 本文中の「こよなう今めかしきものかな」の「今めかし」の意味を答えなさい。
8. 傍線部③「あはれに」の、本文中での意味を答えなさい。

9. 本文中の「子なめり」を、文法的に説明しなさい（もとの語の形と、活用語尾の音の変化にふれること）。
10. 傍線部④「雀の子を犬君が逃がしつる」を、現代語訳しなさい。
11. 傍線部④「雀の子を犬君が逃がしつる」の「つる」は、どのような意味・はたらきの語か。文法的に説明しなさい（活用形・終止形も示すこと）。
12. 本文中の「籠めたりつるものを」の「たり」は、どのような意味・はたらきの助動詞か。文法的に説明しなさい。
13. 本文中の「いと口惜しと思へり」の「口惜し」の、本文中での意味を答えなさい。
14. 少女（女子）が顔を赤くし、「いと口惜し」と思っているのはなぜか。本文の内容にそって説明しなさい。
15. 傍線部⑤「いで、あな幼や」は、誰が、誰に対して言ったことばか。本文の内容にそって答えなさい。
16. 尼君のことば「言ふかひなうものし給ふかな」を現代語訳しなさい。
17. 傍線部⑥「ねびゆかむさまゆかしき人かな」を現代語訳しなさい（「ねびゆく」「ゆかし」の意味に注意すること）。
18. 傍線部⑥にふくまれる「ねびゆく」「ゆかし」の、語句としての意味をそれぞれ答えなさい。
19. 傍線部⑦「限りなう心を尽くしきこゆる人に、いとよう似たてまつれる」を現代語訳しなさい。
20. 傍線部⑦の「きこゆる」「似たてまつれる」に用いられている敬語について、それぞれ敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答え、誰への敬意を表しているか説明しなさい。
21. 傍線部⑦「限りなう心を尽くしきこゆる人に、いとよう似たてまつれる」とあるが、源氏が垣間見た少女（のちの紫の上）に強く心をひかれたのはなぜか。本文をふまえて説明しなさい。
22. 本文末の「まもらるるなりけり」の「るる」は、どのような意味・はたらきの助動詞か。意味（自発・可能・受身・尊敬のいずれか）を答えなさい。
23. 本文中の「持仏据ゑ奉りて」の「奉り」について、(1)敬語の種類を答え、(2)誰から誰への敬意を表しているかを説明しなさい。
24. 【文学史】『源氏物語』について、(1)作者名、(2)成立した時代、(3)ジャンル（物語の種類）を、それぞれ答えなさい。
25. 【文学史】『源氏物語』の主人公の名を答えなさい。また、『源氏物語』と同じく平安時代に成立した、和歌を中心に短い話を連ねた物語（「歌物語」）の代表作を一つ挙げなさい。